

2022 年度

授業シラバス

看護第2学科

Kinsyukai Nursing College



学校法人阪和学園
錦秀会看護専門学校

マトリクス 目次

授業科目、単位数及び時間数	1
科目別関連マトリクスⅠ：病態生理学	2
科目別関連マトリクスⅡ：看護学疾患および症状	3
科目別関連マトリクスⅢ：看護技術	4
科目別関連マトリクスⅣ：経過別看護援助	5
科目別関連マトリクスⅤ：看護過程	6

シラバス 目次
2021 年度入学生 (第 44 期生)

〈専門基礎分野〉

病態生理学Ⅱ (呼吸・循環・血液・脳神経)	7
病態生理学Ⅲ (消化器・内分泌・腎・感染症・感覚器)	9
病態生理学Ⅳ (女性・小児・精神・運動器)	11
看護関係法令	13

〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学方法論Ⅴ (活動・苦痛の緩和・検査・学習支援)	14
--	----

〈専門分野Ⅱ〉

成人看護学方法論Ⅰ (呼吸・循環・生体防御・消化器)	15
成人看護学方法論Ⅱ (内分泌・脳神経・排泄・運動器)	17
成人看護学方法論Ⅲ (周手術期・終末期・看護過程)	18
老年看護学方法論Ⅰ	19
老年看護学方法論Ⅱ	20
小児看護学概論	21
小児看護学方法論Ⅰ	22
小児看護学方法論Ⅱ	23
母性看護学概論	24
母性看護学方法論Ⅰ	25
母性看護学方法論Ⅱ	26
精神看護学方法論Ⅰ	27
精神看護学方法論Ⅱ	28

〈統合分野〉

在宅看護論概論	29
在宅看護論方法論Ⅰ	30
在宅看護論方法論Ⅱ	31
看護の統合と実践Ⅱ (救急・災害・国際)	32
看護の統合と実践Ⅲ (看護研究)	34

シラバス 目次
2020 年度入学生 (第 43 期生)

〈統合分野〉	
看護の統合と実践IV	35

授業科目、単位数および時間数

(看護専門課程 看護第2学科)

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次		
					単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1	30	1	30					
		統計学	1	30	1	30					
		文学	1	30	1	30					
	人間と人間生活 社会の理解	哲学	1	15	1	15					
		心理学	1	30	1	30					
		社会学	1	30	1	30					
		教育学	1	15	1	15					
		英語	1	30	1	30					
	小 計		8	210	8	210	0	0	0	0	
専門基礎分野	人間の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30					
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30					
		栄養と代謝	1	30	1	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ	1	30	1	30					
		病態生理学Ⅱ	1	30			1	30			
		病態生理学Ⅲ	1	30			1	30			
		病態生理学Ⅳ	1	30			1	30			
		薬理学	1	30	1	30					
	健康支援と社会保障制度	微生物学	1	30	1	30					
		レクリエーション論	1	30	1	30					
		公衆衛生	1	15	1	15					
		社会福祉	1	30	1	30					
	看護関係法令	総合医療論	1	15	1	15					
		看護関係法令	1	15			1	15			
	小 計		14	375	10	270	4	105	0	0	
専門分野I	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1	30					
		看護学概論Ⅱ	1	15	1	15					
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30			1	30			
	臨地実習	基礎看護学実習	2	90			2	90			
	小 計		9	285	6	165	3	120	0	0	
専門分野II	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30					
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30			
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30			1	30			
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30					
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30			
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			1	30			
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30			
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30			
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30			
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30					
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30			
	臨地実習	成人看護学実習	2	90				2	90		
		老年看護学実習	2	90				2	90		
		小児看護学実習	2	90				2	90		
		母性看護学実習	2	90				2	90		
		精神看護学実習	2	90				2	90		
	小 計		26	930	3	90	13	390	10	450	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	30			1	30			
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30			
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30			
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	30	1	30					
		看護の統合と実践Ⅱ	1	30			1	30			
		看護の統合と実践Ⅲ	1	30			1	30			
		看護の統合と実践Ⅳ	1	30					1	30	
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90					2	90	
		統合実習	2	90					2	90	
		小 計		11	390	1	30	5	150	5	210
合 計			68	2190	28	765	25	765	15	660	
教科外活動					322	72		88		162	
総計					2512	837		853		822	

科目別関連マトリクス I (病態生理学)

科目		病態生理学 II<1単位:30時間>		病態生理学 III<1単位:30時間>		病態生理学 IV<1単位:30時間>	
系統	単元	科目	単元	科目	単元	科目	単元
8	呼吸器	呼吸器・循環器・血液・脳神経 主な疾患	8	消化器 主な疾患	8	女性生殖器・小兒疾患・精神疾患・運動器疾患 主な疾患	
		・慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺結核、肺炎		・胃癌、大腸癌、食道癌、肝癌、膀胱癌		・子宮・卵巢の腫瘍 ・更年期障害、月経異常 ・不妊症、骨盤臓器脱	
8	循環器	虚血性心疾患・心不全	6	内分泌 代謝	6	小兒疾患	
		・白血病・貧血・悪性リンパ腫		・糖尿病、痛風		・ウイルス感染症・気管支喘息・ネフローゼ症候群 ・先天性心疾患・染色体異常症	
4	血液		4	腎・泌尿器	4	精神疾患	
		・パーキンソン病		・腎不全、前立腺肥大症		・依存症、統合失調症、気分障害、認知症 ・心的外傷後ストレス障害	
8	脳神経	・クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞 ・筋萎縮性側索硬化症	6	感染 ・麻疹、風疹 ・耐性菌感染症 ・關節リウマチ、全身性エリテマトーデス	6	運動器疾患	
		・パーキンソン病		・眼疾患（白内障、緑内障） ・耳鼻科疾患（難聴、副鼻腔炎） ・皮膚疾患（熱傷、皮膚癌）			

※ 病態生理学IVの終講試験は時間外に実施する

科目別関連マトリクスⅡ（疾患および症状）

科目 系統(成人)	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小兒看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
呼吸器系（8時間）	肺結核 気胸、肺がん、慢性閉塞性肺疾患 喀痰・咯血・咯痰・呼吸困難 チアノーゼ	肺炎 沈下性肺炎、誤嚥性肺炎	肺炎 上気道炎・下気道炎				慢性閉塞性肺疾患
循環器系（8時間）	心不全 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症） 胸痛、不整脈、ショック、浮腫、高血 圧		先天性心疾患				
血液・造血器 感染・アレルギー・ 膠原病（4時間）	白血病・悪性リンパ腫 全身性エリテマトーデス・後天性免疫不 全症候群 播種性血管内凝固症候群	IgA腎症 白血病、川崎病、膠原病 ウイルス感染症 発熱	性感染症 先天性風疹症候群				
消化器系 (8時間)	胃癌、大腸癌、食道癌 胃・十二指腸潰瘍 肝炎・肝硬変、肝臓癌、脾炎、胆石 胰下管癌、悪心・嘔吐、腹部膨満、吐 血、下血、黄疸	脳梗塞、 急性虫垂炎 潰瘍性大腸炎・急性胃腸炎・ヒル シニスフルンゲン病 下痢、嘔吐、脱水	高ヒリビン血症				
内分泌・代謝系 (6時間)	甲状腺機能亢進症、低下症 下垂体・副腎皮質機能不全 糖尿病、痛風、メタボリック症候群 高血糖、低血糖、肥満、やせ		1型糖尿病	妊娠糖尿病			Ⅱ型糖尿病
神経・精神系 (8時間)	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、 脳腫瘍 意識障害・運動異常・高次能機能障害 けいれん、頭蓋内圧亢進症状、愛愛障害 腰椎椎間板ヘルニア 骨折	脳膜炎、脳性麻痺、ダウン症候群 パーキンソン病 痛み、せん妄 学習障害	老人性うつ・脳梗塞・認知症 けいれん	先天性股関節脱臼 上腕骨頸上骨折	統合失調症、アディクション（依存症） 気分障害、心の外傷後ストレス障害 認知症・脳梗塞（後遺症） 筋萎縮性側索硬化症 認知症・幻覚・妄想・鬱症状・せん妄 昏睡		
運動器系 (8時間)		大腿骨頸部骨折、関節障害 骨粗鬆症、尾椎症候群	前立腺肥大	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 腎孟腎炎			慢性肾不全
腎・泌尿器系 (6時間)	腎不全、腎炎、ネフローゼ 前立腺肥大 尿失禁			妊娠高血压症候群			
母性・女性生殖器 系（10時間）				卵巢腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤 臟器脱、不妊症、更年期障害			
老年・小児・感觉器 系(時間)	感觉機能障害 白内障、白瘜、疥瘻			性器出血、帶下			

科目別関連マトリクスⅢ(看護技術)

基準	科目	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
安全・安全管理	基礎看護学 創傷管理 スタンダードプロセション 無菌操作	転倒予防、跌倒時の対応、 看取りの看護	骨折予防、跌倒時の対応、 看取りの看護	骨折の固定法 サーカルベンドの取り扱い	新生児の寝かし方、抱き方 コットの移送	仰卧、保護垫の使用、保護衣 虚偽の予防、転倒予防	看取りの看護
コミュニケーション 接取的的人間関係	コミュニケーションの基本、 コミュニケーションの基盤	質問のある人のコミュニケーション 失語障害・構音障害に対する 援助 認知症のある人のコミュニケーション 加齢変化の正常と異常、 精神機能評価、生活の自立度	見お上げ家庭とのコミュニケーション アタッチメント	母児とのコミュニケーション 母子手帳、出生届、新生児の 体格測定、アブガースコア 生理的質	患者一看護師関係の相互作用 傾聽、共感、受容 コミュニケーション技術 ナラティヴエコード	家庭訪問	
教育・支援	フィジカルアセスメント スクリーニング 情報収集、観察方法、報告の仕方	生活指導、ホルモン療法治療指導 インプリン自己注射指導	服薬管理指導	インフォームドアセント 准の工夫	集団指導技術(母乳育児、退院後 生活指導)、個人指導(生活指導) 育児指導	健康教育、健康指導 介護指導	
呼吸	呼吸 呼吸器系フジカルアセスメント 酸素吸入	胸腔ドレーチ 術後機械通気 人工呼吸療法	呼吸調定 呼吸フジカルアセスメント	脈拍、血圧測定 マッジネットの種類	新生児の呼吸測定	家庭訪問、ADL 精神障害者相談支援 退院生活支援 社会資源の活用	
体温	体温測定、電法	術後の保溫	体温測定	新生児の体温測定	新生児の体温測定	看護師の処置 腹膜透析の援助	
環境	室内環境の調整、 ベッドメーキング 臥床患者のベッド交換	術後患者のベッドメーキング クリーンルームの整備	生活機能に応じた病床整備	ベッドメーキング	新生児室の環境調整 コットの環境整備	看護環境	
活動・休息	ボディメカニクス、 体重移送 創傷管理技術	歩行器、公衆杖、良肢位の保持 ギアス固定・牽引中の機能訓練 杖歩行介助、負担位置の改善 ADL、ベッドからの離床	杖歩行、暴力障害のある人の 杖歩行介助、負担位置の改善 ADL、歩行介助、生活リズム改善 IADL、ベッドからの離床	新生児の移送、抱き方、午睡 遊び	元産婦体操 妊娠婦の安楽な体位 産褥体操	レクリエーション、絵画、音楽 ADL、リハビリ	
食事・排泄	食事企画、食事形態の工夫 経管栄養、経静脈栄養 排便・排尿の介助、導尿、 浣腸、排便	IVH、胃ろう、排尿訓練、 全身清拭、洗髪、毛浴 洗面、清潔交換、衣類の選択	嚥下障害のある人の食事介助 口腔ケア、嚥下訓練 トイレ訓練	調理、離乳食、乳房マッサージ、 成尼に合わせたトイレーニング 食事介助、乳幼児のオムツ交換	母乳栄養、乳房マッサージ、 乳管開通、授乳、母乳交換、 哺乳量測定、新生児の オムツ交換	経管栄養管理(経鼻、胃ろう) 腸留置カテーテル管理、 ストーマ管理、オムツ交換	
診療・検査	診療・検査	各診療科に特徴的な診察・ 検査	各診療科に特徴的な診察・ 検査	乳幼児の清拭、入浴介助、 手洗い、含嗽、衣類の選択	新生児の衣類の清拭 乳児の手当て 外陰部消毒、骨盤ケア 沐浴	家庭にあるものを利用した保育 洗髪浴槽、入浴介助 洗髪	
技術的支援	与葉 与葉	経口与葉、筋肉注射、皮下 注射、静脈内注射、輸液管理 座葉、経皮与葉、IVH 輸液ホース、シリコン	各診療科に特徴的な診察・ 検査	小児の採血、採尿、身体測定 ブリーフィング、デイスラグション シーネ固定、体位と支え方 胎兒心拍モニター(NST)	新生児の点眼 Kシロップ内服	精神治療管理 薬物管理 IVH管理	
問題解決法	看護過程 クリティカルシンキング リフレクション						

科目別関連マトリクスIV（経過別看護援助）

科目 経過	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
健 康	健康教育 患者教育 ヘルスマネージメント	老人との接し方・交遊 栄養・運動・休息支援 施設内での日常生活支援 レクリエーション支援 成年後見制度 家族への支援・教育	環境との相互作用 発達課題の達成と成熟 基本的生活習慣の獲得 健康的な基盤作り 栄養の意義 健やかな成長・発達 家族システム	女性のライフサイクル各期の ヘルスマネージメント ティベロップメントケア 健診教育・保健指導 妊娠・産婦への援助 新生児の栄養・非・清潔への援助 新生児の看護	介護保険制度 ケアマネジメント 地域包括支援 家族への支援	ヘルスマネージメント 生活保護法 成年後見制度 日常生活支援事業 地域包括支援	在宅看護論
	生命の維持、改善の援助 苦痛の緩和 基本的ニーズの充足 治療(手術療法含む)・処置・検査時への援助 ストレス・危機状態への援助 術前指導、術後合併症のリスク マネジメント、麻酔方法による影響と援助、術後合併症の予防 ボディイメージ変容の援助	体後せん妄への援助 基本的ニーズの充足 治療(手術療法含む)・処置・検査時への援助 ストレス・危機状態への援助 術前指導、術後合併症のリスク マネジメント、麻酔方法による影響と援助、術後合併症の予防 ボディイメージ変容の援助	緊急入院時の小児と家族 事故防止対策 周手術期看護	妊娠高血圧症候群の看護 妊娠糖尿病の看護 切迫流早産妊娠への看護 異常出血時の看護 産科ショック時の看護 帝王切開術前術後の看護 乳房緊湊時の看護 新生児への看護(低血糖、体重減少、黄疸、嘔吐、腹部緊張時の看護)	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援
急性期	日常生活・処置・検査時の援助 苦痛の緩和 二次障害の予防 ADLの指導・機能訓練 セルフマネジメント支援	日常生活援助 運動機能維持の援助 環境適応への援助 事故防止対策 処置・検査時の援助 家族との連携 他職種との連携 社会資源の活用 QOL向上への援助	健康問題が小児と家族に与える影響 健康的成長と発達の援助 事故防止対策 日常生活援助 セルフケア能力の育成 社会資源の活用	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	日常生活の援助 健診保持・増進の援助・ 指導 機能訓練 家族への支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援
回復期	日常生活・処置・検査時の援助 苦痛の緩和 二次障害の予防 ADLの指導・機能訓練 セルフマネジメント支援	日常生活援助 運動機能維持の援助 環境適応への援助 事故防止対策 処置・検査時の援助 家族との連携 他職種との連携 社会資源の活用 QOL向上への援助	短期の受容への援助 生活习惯変更のための健康教育 社会生活適応のための援助 セルフケア能力獲得の援助	症状・苦痛・不安への看護 小児を亡くした家族への援助 デスクエデュケーション	死産で出産した親への援助	グリーフケア 看取りの看護	在宅看護論
慢性期	緩和ケア ターミナルケア グリーフケア	身体的苦痛の緩和 精神的苦痛の緩和 社会的苦痛の緩和 家庭的苦痛の緩和 家族との調整・支援	緩和ケア ターミナルケア グリーフケア	死産で出産した親への援助	死産で出産した親への援助	グリーフケア 看取りの看護	在宅看護論
終末期	マゾロー、ゴードン オレムセルフケア理論 トラベルビー、ロイ、ペナー ハンダーソン ナイチンゲール	エンパワーメント エンパワーメント、エリクソン エリクソン オレムセルフケア理論 自己効力理論 アンドラゴジー、 ハウイガースト キューブラロス、危機理論 ストレス理論、適応理論	ハヴィイカースト、エリクソン エンパワーメント、レビンソン エリクソン オレムセルフケア理論 マーラー分離固体化理論 エリクソン ハヴィイガースト	リプロダクティブルス・ライ リージェンシー発達理論 ボウルビィ・アッチャメント マーラー分離固体化理論 コンフォート理論 自己効力理論 アンドラゴジー、 ハウイガースト キューブラロス、危機理論 ストレス理論、適応理論	危機理論 人間関係論(ペプロウ、トラベ ルビー、ウェーテンバッカ) ストレス理論・ストレンギングス理論 セルフケア理論(オレム・アン ダーウッド理論) エリクソン、パンデューラ リカバリー、レジリエンス	危機理論 人間関係論(ペプロウ、トラベ ルビー、ウェーテンバッカ) ストレス理論・ストレンギングス理論 セルフケア理論(オレム・アン ダーウッド理論) エリクソン、パンデューラ リカバリー、レジリエンス	在宅看護論

科目別関連マトリクスV（看護過程）

科目 経過	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
対象	52歳 女性	46歳 男性	85歳 女性	8か月 女児	27歳 女性	28歳 男性	78歳 男性
段発達	中年期	壮年期	老年期	乳児期	成人人期	青年期	老年期
（健健康段階障害）	心不全	腎癌（急性期）	脳梗塞、高血圧	肺炎	初産婦	統合失調症（亜急性期）	糖尿病性腎症（慢性期） <透析導入前> 糖尿病性網膜症
各領域の特徴	・看護過程の基礎、 ・ゴードンのパターンの理解と活用方法を理解し、 ・ハンドブックに基づいて看護診断をあげる ・QI、TP、EJの理解	・成人期の特徴 ・手術を受ける患者の特徴 ・周術期の看護 ・共同問題の理解	・高齢者の身体的特徴 ・高齢者の健康障害の特徴 ・退院後の不安 ・家族への関わり	・小児の成長発達 ・小児の健康障害の特徴 ・家族看護	・周産期 ・新生兒期	・精神症状の日常生活 行動への影響	・生活者としての在宅療養者 ・療養者・家族へのセルフケアの支援
・アセスメントの枠組みに沿った情報の整理 ・情報の意味を考える（質問・分析）、関連図を活用した全体像の把握 ・看護診断の推論、照合の方法 ・看護診断の優先順位の決定 ・看護計画の記載方法	・壮年期の特徴 ・役割、期気や治療に対する認識 ・胃癌または大腸癌の特徴から予測される合併症、二次障害 ・手術による身体侵襲、機能の変化について理解する ・術後の回復に向けての援助（個別性をふまえる） ・退院後の生活に向けて、自己管理と社会生活への適応について理解する。	・高齢者の持てる力を維持・継続させ、潜在している力の顯在化 ・老年期の発達段階をふまえ、人生觀を尊重する思考 ・症状別看護 ・小児における疾病の経過とその看護 ・入院に伴う子どもとその家族への影響 ・生活環境にはたらきかけられる。 ・目標志向型志向を学習する。 ・その人が望む人生の総合に向けての支援	・疾患の理解 ・小児に多い呼吸器系疾患の看護 ・母親となった女性の持てる力の発揮を促進する看護 ・入院に伴う子どもとその家族への影響 ・情報を探し、必要な看護情報を分析し、必要な看護を導き出すこと ・発達段階に応じた日常生活援助 ・実践可能な計画の立案	・妊娠・分娩・産褥・新生児期のアセスメント ・正常から逸脱を予防する看護 ・母親となつた女性の持てる力の発揮を促進する看護 ・対象の日常生活を整える看護 ・在宅における看護過程の理解 ・入院生活や環境が精神状態に及ぼす影響の理解 ・対象を観察する看護 ・対象の日常生活を整える看護	・在宅における看護過程の特徴 ・療養者と家族を一つの単位として支援する必要性 ・生活環境と生活状況を知る必要性 ・在宅における生活支援の方法 ・療養者と家族を支援するサービス ・在宅ケアチームにおける看護職及び他職種の役割と連携・協働の必要性		
学ばせたい看護の内容							

専門基礎分野

授業科目名	単位 (時間数)	担当講師名	時期
病態生理学Ⅱ	1 単位 (30 時間)	大垣 孝雄 佐伯 集一 甲斐 俊朗 藤田 敏晃	2 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠となる、呼吸器、循環器、血液、脳神経系に起る疾病的病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。

授業計画		授業内容	担当
回	時間		
1	8	〈呼吸器〉 疾患の理解 ・肺炎	大垣
2		・慢性閉塞性肺疾患 ・肺癌 ・肺結核	
3		検査法 ・聴診（呼吸音） ・気管支鏡 ・呼吸機能検査	
4		・動脈血ガス分圧測定 ・胸腔穿刺	
5	8	〈循環器〉 疾患の理解 ・虚血性心疾患	佐伯
6		検査法 ・負荷心電図 ・心臓カテーテル法	
7		治療 ・中心静脈圧測定	
8			
9	4	〈血液〉 疾患の理解 ・白血病	甲斐
10		検査法 ・骨髄穿刺 治療法 ・（骨髄）移植	

11		〈脳神経〉 疾患の理解 ・クモ膜下出血 ・脳内出血 ・脳梗塞 ・パーキンソン病 症状の理解 ・高次脳機能障害 ・けいれん ・排泄障害 ・呼吸障害 ・頭蓋内圧亢進症状		
12	8		・ギランバレー症候群 ・髄膜炎 ・てんかん ・脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 ・運動麻痺、運動失調 ・感覚異常（しびれなど） ・脳波	藤田
13		検査 ・髄液検査		
14		治療		
15	2	試験		

【教科書】

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経』 医学書院

配布プリント

【参考書、参考資料等】

【評価の方法】 筆記試験

専門基礎分野

授業科目名	単位 (時間数)	担当講師名	時 期
病態生理学III	1 単位 (30 時間)	矢田豊 宮崎純一 田中伸生 楠洋子 小畠俊男 大垣孝雄 森本絹子 忽那晴央	2 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠となる、消化器、内分泌・代謝、腎・泌尿器に起る疾病および感染症・アレルギー・膠原病、感覚器系の病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。

授業計画		授業内容	
回	時間		
1	8	〈消化器〉 疾患の理解 ・胃癌　・大腸癌 ・食道癌 ・肝臓癌　・脾臓癌 検査・治療（手術療法）	矢田 宮崎 田中
2			
3			
4			
5	4	〈内分泌・代謝〉 疾患の理解 ・糖尿病 ・痛風 検査・治療	楠
6			
7	4	〈腎・泌尿器〉 疾患の理解 ・腎不全 ・前立腺肥大 検査・治療（透析療法）	小畠
8			
9	6	〈感染症・アレルギー・膠原病〉 疾患の理解 ・麻疹、風疹 ・耐性菌感染症 ・全身性エリテマトーデス ・関節リウマチ 検査・治療	大垣
10			
11			
12	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 ・眼疾患（白内障、緑内障） 検査・治療	森本
13	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 ・耳鼻科疾患（難聴、副鼻腔炎） 検査・治療	小畠
14	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 ・皮膚疾患（熱傷、皮膚癌） 検査・治療	忽那
15	2	終講試験	

【教科書】

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膜原病 感染症』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚 〔13〕眼 〔14〕耳鼻咽喉』 医学書院

【参考書、参考資料等】

【評価の方法】

筆記試験

専門基礎分野

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
病態生理学IV	1 単位 (30 時間)	日高 敦夫 岩城 大 高見 勝次 金 光成 田中 奈絵子	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

- ・女性生殖器の特徴を理解し、健康障害の病態生理と検査・治療について学習する。
- ・小児の健康障害の特殊性を理解し、その検査・治療について学習する。
- ・精神障害のメカニズムを理解し、その症状、検査、治療について学習する。
- ・運動器系に起こる疾病の病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。

授業計画		授業内容	担当
回	時間		
1	10	<女性生殖器系> 疾患の理解 ・子宮、卵巣の腫瘍 ・更年期障害、月経異常 ・不妊症、骨盤臓器脱 検査、治療	日高
2			
3			
4			
5			
6	8	<小児疾患> 疾患の理解 ・気管支炎 ・腸重積症 ・ウイルス感染症 ・気管支喘息 ・ネフローゼ症候群 ・先天性心疾患 検査、治療	田中
7			
8			
9			
10	8	<精神疾患> 疾患の理解 ・依存症 ・統合失調症 ・気分障害 ・認知症 ・心的外傷後ストレス障害 ・児童精神医学 検査、治療	岩城
11			
12			
13			
14	4	<運動器疾患> 疾患の理解 ・大腿骨頸部骨折 ・変形性関節症	高見 金
15			

		終講試験	
--	--	------	--

【教科書】

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器』 医学書院

配布プリント

【参考書、参考資料等】

【評価の方法】

筆記試験

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期		
看護関係法令		1 単位 (15 時間)	前島 良弘	2 年次 前期		
【授業の概要および目標】						
法の概念及び、看護職に必要な法令および社会保障制度の概略について理解し、さらに、関連法規、医療過誤全般について理解する。						
授業計画	回	時間	授業内容			
1	2	<u>法の概念</u> 法の基礎的理解及び最近問題となっている生命倫理にかかる医療問題を考察する。				
2	2	<u>厚生労働行政のしくみ</u> 医療の現場と、行政機関がどのように関係しているかを解明する。				
3	2	<u>医事法規の概要</u> 衛生法規の沿革及び分類を理解することで、今後の法改正に柔軟に対応できる能力をつける。				
4	2	<u>保健師助産師看護師法</u> 改正経過、厚労省の通達を踏まえて逐条解釈、法社会学的解釈をします。				
5	2	<u>関連法規について</u> 保健・医療・福祉が様々に交錯する分野を縦割りに理解するだけでなく、横の繋がりを実務的に解明し、社会資源の活用のノウハウを習得する。				
6	2	<u>医療過誤</u> 様々な医療事故・医療過誤事例を検討し、看護職に問われる可能性のある法的責任としての民事責任、刑事责任、行政責任、及び倫理観の問題としての道義的責任について考える。				
7	2	<u>国家試験受験への導入</u>				
8	1	試験				
【教科書・参考書、参考資料等】						
「看護学生のための法規と社会保障制度」(ふくろう出版)						
【評価の方法】 成績判定は、終講試験（空所補充問題）と日常授業態度との総合評価により行います。						
【学生へのコメント】						
①法律は生きものです。日進月歩の医療技術と同様に、実態に即して有機的な理解を深めることを目標にします。 ②法律の学習は看護倫理観の醸成にもつながります。また、国家試験に直結する分野でもありますから、3年次になっても学習し続けてください。 ③毎回、重要な授業プリント及び資料を配布します。しっかりファイルしてください。 ④出席を重視し、欠課の場合の課題はレポート形式の課題を課します。 ⑤必要に応じて、単元別国家試験問題演習を行います。						

専門分野 I

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論 V	1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ 松原 希実子	2 年次 前 期・後 期

【授業の概要および目標】

- ・対象が健康生活を送るために必要な活動・休息についてのアセスメントや援助の方法を理解する。
- ・苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護援助の方法を理解する。
- ・創傷とその治癒過程のメカニズムを知り、治癒のための方法を理解する。
- ・それぞれの検査についての目的や方法を知り、看護を理解する。
- ・看護における学習支援の目的と意義を理解する。

授業計画		
回	時間	授業内容
1	2	1. 活動・休息援助技術（第 4 章）
2	2	2. 苦痛の緩和・安楽確保の技術（第 5 章）
3	2	
4	2	3 創傷管理技術（第 6 章）
5	2	4. 症状・生体機能管理技術（第 11 章）
6	2	5. 診察・検査・処置の介助技術（第 12 章）
7	2	【演習】真空管採血・体位固定
8	2	6. 学習支援
9	6	【演習】退院支援 グループワーク (事例を基に退院支援の方法を考える)
10		
11		
12	4	【演習】退院支援 発表
13		
14	2	【O S C E ②】技術試験
15	2	終講試験

神藤

松原

【教科書】

- (7 ~ 13 回) 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I』医学書院
(1 ~ 6 回) 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II』医学書院

【参考書】

『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (4) 臨床看護総論』医学書院

【評価の方法】

筆記試験、演習の取り組み、発表、O S C E ②、

専門分野Ⅱ

授業科目名	時間数	担当講師名	時 期
成人看護学方法論 I	1 単位 (30 時間)	田中 二美子 寺下 千穂 安藤 真由美 北中 美由紀	2 年次 前 期

【授業の概要および目標】

病態生理学で学んだ知識をもとに、それぞれの健康障害の特徴および生活上の諸問題とセルフマネージメントに向けた援助方法について学習し、健康回復に向けての看護を理解する。

授業計画		授 業 内 容	担当
回	時間		
1	2	<呼吸機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) せき・喀たん 2) 血たん・喀血 3) 胸痛 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ	
2		2. 疾患をもつ患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患	田中
3	6	2) 肺結核 3. 気胸をもつ患者の看護（胸腔ドレナージ）	
4		4. 肺癌をもつ患者の看護（開胸手術） 5. 気管切開術を受ける患者の看護	
5	2	<循環機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) 胸痛 2) 不整脈 3) ショック 4) 浮腫 5) 高血圧	
6		2. 疾患をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞 2) 狹心症	寺下
7	6	3. ペースメーカーを挿入する患者の看護	
8			
9	2	<生体防御機能低下のある患者の看護（血液・アレルギー・膠原病）> 1. 症状に対する看護 1) 貧血 2) 出血傾向（易感染性）	
10	2	2. 疾患をもつ患者の看護 1) 播種性血管内凝固症候群 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 関節リウマチ 5) 全身性エリテマトーデス 6) 後天性免疫不全症候群	安藤
11		<消化・吸収機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) 嘔気・嘔吐 2) 腹部膨満 3) 吐血・下血 4) 黄疸	
12	4	2. 内視鏡検査を受ける患者の看護 3. 肝生検を受ける患者の看護	北中
13		4. 疾患をもつ患者の看護 1) 食道癌 2) 胃癌 3) 大腸癌 4) 胃・十二指腸潰瘍	
14	4	4) 肝炎・肝硬変・肝臓癌 5) 膵炎 6) 胆石症	
15	2	試験	

【教科書】

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2) 呼吸器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3) 循環器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4) 血液・造血器』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11) アレルギー・膠原病・感染症』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5) 消化器』 医学書院

【参考書・参考資料等】

【評価の方法】

筆記試験

専門分野Ⅱ

授業科目名		時間数	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅱ		1 単位 (30 時間)	田中 宏美 山上 雅美 平川 智子 間部 美代子	2 年次 前 期
【授業の概要および目標】				
病態生理学で学んだ知識をもとに、それぞれの健康障害の特徴および生活上の諸問題とセルフマネージメントに向けた援助方法について学習し、健康回復に向けての看護を理解する。				
授業計画	回	時間	授 業 内 容	
1	6	6	<内分泌・代謝機能障害のある患者の看護>	
2			1. 疾患をもつ患者の看護 1) 糖尿病 2) 痛風 3) メタボリック症候群 4) 甲状腺機能亢進症・低下症 5) 下垂体・副腎皮質機能不全	田中
3			<脳神経機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) 意識障害 2) 運動の異常 3) 高次脳機能障害 4) けいれん 5) 頭蓋内圧亢進症状 2. 【演習】嚥下障害のある患者の食事介助	
4	6	2	3. 疾患をもつ患者の看護 1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) 脳腫瘍 4) クモ膜下出血 4. V-P シャント術を受ける患者の看護	山上
5			<体液調節機能障害のある患者の看護> 1. 疾患をもつ患者の看護 1) 腎不全 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ 2. 人工透析を受ける患者の看護	
6			8	
7	6	6	<運動機能障害のある患者の看護> 1. 援助のためのおもな知識と技術 2. 保存療法を受ける患者の看護 3. 手術を受ける患者の看護（骨折・椎間板ヘルニア）	平川
8				
9				
10				
11	8	8		間部
12				
13				
14				
15	2	2	試験	
【教科書】				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝』 医学書院				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経』 医学書院				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器』 医学書院				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器』 医学書院				
【参考書、参考資料等】				
【評価の方法】				
筆記試験				

専門分野Ⅱ

授業科目名	時間数	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	馬込 夏奈 三浦 文子 井上 明美	2 年次 前 期

【授業の概要および目標】

- ・手術による侵襲および術後の回復過程をふまえ、必要な援助内容を理解する。
- ・成人期にある対象の事例を通して、発達段階・健康レベル・生活面からとらえた看護を展開するプロセスを理解する。

授業計画		授 業 内 容
回	時間	
1	2	<周手術期看護> 1. 外科的侵襲から回復期の生体反応 2. 外科的侵襲の種類
2	2	3. 術中の看護
3	2	4. 術前の看護
4	2	5. 術後合併症予防と発症時の援助
5	2	6. 術後の継続看護
6	2	<事例展開> 1. 事例紹介 2. フェイスシート、データベース 3. 解釈分析 ①健康知覚-健康管理
7	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ②栄養-代謝 ③排泄
8	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ④活動-運動 ⑤睡眠-休息
9	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ⑥認知-知覚 ⑦自己知覚-自己概念 ⑧役割-関係
10	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ⑨性-生殖器 ⑩コーピング-ストレス ⑪価値-信念
11	2	<事例展開> 4. 関連図 5. 問題リスト
12	2	<事例展開> 6. 看護計画立案 7. 実施計画立案
13	4	【演習】
14		8. 術後管理に基づく全身清拭（輸液挿入中・ドレーン挿入中） 9. 経過記録 (SOAP)
15	2	筆記試験

【教科書】

『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院

配布資料

【評価の方法】

筆記試験と看護過程（事例展開、演習）

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期				
老年看護学方法論Ⅰ		1 単位 (30 時間)	松原 希実子 赤木 美和 喜多 佳永子	2 年次 前期				
【授業の概要および目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による変化が生活へ及ぼす影響と高齢者の生活の特徴および健康維持・増進に向けた看護の方法を理解できる。 ・高齢者に特有な症候・疾患・障害を学びアセスメントとケアの方法を理解できる。 								
回	時間	授業内容						
		【演習】 日常生活を支える基本的活動と高齢者疑似体験						
1	2	<高齢者のヘルスアセスメントと生活機能を整える看護> 1. 動作と移動						
2	2	2. 食事						
3	2	3. 排泄						
4	2	4. 清潔						
5	2	5. コミュニケーション						
6	2	6. 生活リズム						
7	2	<高齢者によくみられる身体症状と看護> 1. 発熱 2. 痛み 3. 搓痒 4. 脱水						
8	2	<高齢者に多い疾患の看護> 1. 骨粗鬆症 2. 大腿骨頸部骨折 3. 変形性膝関節症						
9	2	4. 心不全 5. 肺炎						
10	2	認知機能の障害に対する看護ケア①						
11	2	認知機能の障害に対する看護ケア②						
12	2	【演習】 口腔ケア①		赤木				
13	2	【演習】 口腔ケア②						
14	2	試験		喜多				
15	2							
【教科書】【参考書】								
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』医学書院 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』医学書院								
【評価の方法】								
授業への取り組み状況と提出物、課題レポートおよび筆記試験、出席状況により総合的に評価する								

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
老年看護学方法論Ⅱ	1 単位(30 時間)	河部 小百合 田中 宏美 松永 久美子 有田 弥棋子 松原 希実子	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

- ・治療を受ける高齢者の特徴と必要な看護の方法を理解できる。
- ・寝たきりによる影響・弊害を学び身体可動性の障害をもつ高齢者の看護の方法を理解できる。
- ・健康逸脱からの回復と終末期にある高齢者のQOLを高める看護の方法を理解できる。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	診断過程における高齢者の看護
2	2	入院を必要とする高齢者の看護
3	2	退院時の看護と継続看護
4	2	薬物治療を受ける高齢者の看護
5	2	手術療法を受ける高齢者の看護
6	2	身体可動性障害のある高齢者の看護
7	2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護
8	2	終末期にある高齢者の看護①
9	2	終末期にある高齢者の看護②
10	2	<看護過程の展開> 1、事例紹介 2、フェイスシート・データーベース 3、解釈分析 ①健康知覚・健康管理 ②栄養・代謝 ③排泄
11	2	<看護過程の展開> 3、解釈分析 ④活動・運動 ⑤睡眠・休息 ⑥認知・知覚
12	2	<看護過程の展開> 3、解釈分析 ⑦自己知覚・自己概念 ⑧役割・関係 ⑨セクシャリティ・生殖 ⑩コーピング・ストレス耐性 ⑪価値・信念
13	2	<看護過程の展開> 4、関連図
14	2	<看護過程の展開> 5、看護診断 6、看護計画
15	2	試験

【教科書】【参考書】

『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 医学書院

『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』 医学書院

リンダJカルペニート『看護診断ハンドブック』 医学書院

【評価の方法】

筆記試験と事例展開、出席や授業への取り組み状況、提出物により総合的に評価する。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
小児看護学概論	1 単位(30 時間)	宇藤 裕子	2 年次 前期
【授業の概要および目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の特徴と理念および小児看護における倫理について学び、小児看護の役割を理解する。 ・小児看護の変遷と子どもと家族を取り巻く社会について学び、小児看護の課題を考える。 ・小児の成長・発達および子どもの栄養について学び理解する。 ・病気・障害をもつ小児とその家族の特徴について学び、看護の特徴を理解する。 ・子どもの発達段階および健康段階・環境に応じた看護の特徴を理解する。 			
授業計画	回	時間	授業内容
	1	2	小児看護の特徴と理念
	2	2	子どもの成長・発達①
	3	2	子どもの成長・発達②
	4	2	子どもの栄養
	5	2	新生児・乳児①
	6	2	新生児・乳児②
	7	2	新生児・乳児③ 幼児・学童①
	8	2	幼児・学童②
	9	2	幼児・学童③ 思春期・青年期の子ども①
	10	2	思春期・青年期の子ども②
	11	2	思春期・青年期の子ども③
	12	2	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会①
	13	2	子どもと家族を取り巻く社会②・小児在宅
	14	2	子どもの虐待と看護 (臨床看護総論第8章)
	15	2	終講試験
【テキスト】 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護概論 小児臨床看護総論			
【参考文献】 へるす出版 小児看護			
【評価の方法】 試験・授業態度・課題提出状況により総合的に評価する。			

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期																																																																				
小児看護学方法論Ⅰ	1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ	2 年次 前期・後期																																																																				
【授業の概要および目標】																																																																							
<ul style="list-style-type: none"> ・小児のアセスメントおよび状況別・経過別・症状別・検査・処置別看護について学ぶ。 ・科学的根拠に基づいた安全で安楽な小児看護の援助技術について学び考えることで、小児看護の特殊性を理解する。 ・看護過程を行い、小児に代表的な疾患の看護について理解する。 ・看護過程を行い、適切に問題解決する能力を養う。 																																																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">授業計画</th> <th colspan="2">授業内容</th> </tr> <tr> <th>回</th> <th>時間</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td colspan="2">病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (小児臨床看護総論第1章)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td colspan="2">子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 (小児臨床看護総論第2章)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td colspan="2">子どものアセスメント①</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2</td> <td colspan="2">子どものアセスメント② 症状を示す子どもの看護①</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2</td> <td colspan="2">症状を示す子どもの看護②</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2</td> <td colspan="2">検査・処置を受ける子どもの看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程①〉事例展開の説明・資料配布・事例紹介・情報分類</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程②〉情報分析</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程③〉情報分析</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程④〉情報分析</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程⑤〉情報分析</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程⑥〉情報分析</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程⑦〉統合・看護診断</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>2</td> <td colspan="2">〈看護過程⑧〉看護計画</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>2</td> <td colspan="2">終講試験</td> </tr> </tbody> </table>				授業計画		授業内容		回	時間			1	2	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (小児臨床看護総論第1章)		2	2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 (小児臨床看護総論第2章)		3	2	子どものアセスメント①		4	2	子どものアセスメント② 症状を示す子どもの看護①		5	2	症状を示す子どもの看護②		6	2	検査・処置を受ける子どもの看護		7	2	〈看護過程①〉事例展開の説明・資料配布・事例紹介・情報分類		8	2	〈看護過程②〉情報分析		9	2	〈看護過程③〉情報分析		10	2	〈看護過程④〉情報分析		11	2	〈看護過程⑤〉情報分析		12	2	〈看護過程⑥〉情報分析		13	2	〈看護過程⑦〉統合・看護診断		14	2	〈看護過程⑧〉看護計画		15	2	終講試験	
授業計画		授業内容																																																																					
回	時間																																																																						
1	2	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (小児臨床看護総論第1章)																																																																					
2	2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 (小児臨床看護総論第2章)																																																																					
3	2	子どものアセスメント①																																																																					
4	2	子どものアセスメント② 症状を示す子どもの看護①																																																																					
5	2	症状を示す子どもの看護②																																																																					
6	2	検査・処置を受ける子どもの看護																																																																					
7	2	〈看護過程①〉事例展開の説明・資料配布・事例紹介・情報分類																																																																					
8	2	〈看護過程②〉情報分析																																																																					
9	2	〈看護過程③〉情報分析																																																																					
10	2	〈看護過程④〉情報分析																																																																					
11	2	〈看護過程⑤〉情報分析																																																																					
12	2	〈看護過程⑥〉情報分析																																																																					
13	2	〈看護過程⑦〉統合・看護診断																																																																					
14	2	〈看護過程⑧〉看護計画																																																																					
15	2	終講試験																																																																					
【教科書】																																																																							
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1 小児看護概論 小児臨床看護総論																																																																							
医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術																																																																							
【参考図書】																																																																							
医学書院 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第1版																																																																							
南江堂 看護学テキスト NICE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技																																																																							
【評価の方法】																																																																							
授業への取り組み状況と提出物及び試験により総合的に評価する。																																																																							

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
小児看護学方法論Ⅱ	1単位(30時間)	神藤 めぐみ	2年次後期

【授業の概要および目標】

- ・小児に特有の疾患や健康障害について学習し、必要な看護について考える。
- ・さまざまな小児の発達段階および健康障害における、小児臨床看護の実際を理解する。
- ・演習やグループワークを通して、小児とその家族を尊重し思いやりをもって接する看護の知識・技術・態度を修得する。

授業計画 回	時間	授業内容
1	2	
2	2	〈グループワーク〉 IgA 血管炎／気管支喘息／川崎病／18 トリソミー／I 型糖尿病の患児の看護
3	2	
4	2	〈発表〉 IgA 血管炎／気管支喘息／川崎病／18 トリソミー／I 型糖尿病の患児の看護
5	2	
6	2	子どもの安全を守る看護
7	2	子どもにおける疾病の経過と看護 (小児臨床看護総論第3章) ①
8	2	子どもにおける疾病の経過と看護 (小児臨床看護総論第3章) ②
9	2	〈演習〉子どものバイタルサイン測定
10	2	〈演習〉プレパレーションと曼荼羅塗り絵
11	2	〈グループワーク〉子どものバイタルサイン測定とプレパレーションおよび曼荼羅塗り絵
12	2	〈発表〉子どものバイタルサイン測定とプレパレーションおよび曼荼羅塗り絵
13	2	・小児に多い疾患と看護 食物アレルギー、感染症、熱性けいれん、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、アトピー性皮膚炎、悪性腫瘍、急性虫垂炎、発達障害 (LD、ADHD、アスペルガー、など)、心疾患、ヒルシュスブルング病、腸重積、髄膜炎など
14	2	
15	2	終講試験

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院

【評価の方法】

演習やグループワークへの取り組み状況、課題レポートの内容及び試験により総合的に評価する。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
母性看護学概論	1 単位(30 時間)	深津 起代子	2 年次 前期

【授業の概要および目標】

- 母性の様々な概念を理解し、母性看護・母子の保健に関する基礎的知識を養う。
- リプロダクティブヘルス／ライツを理解し、ヘルスケアの課題について考えることが出来る。
- 女性のライフステージを通して、各期の多側面から健康上の特徴、課題について理解し、女性と家族の健康支援のための必要な知識を養う。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	・母性、父性、親性について ・母性の概念の歴史的変遷
2	2	・リプロダクティブヘルス／ライツ、セクシュアリティについて 1. 女性にとってのリプロダクティブヘルス／ライツ 2. セクシュアリティとはなにか、性の価値観、多様性の理解
3	2	・母性看護における倫理的課題、意思決定を支えるケア
4	2	・母性を取り巻く歴史的変遷と現状 1. 母子保健統計の動向
5	2	・母性看護に関する施策と法律 ・母性看護の対象を取り巻く環境
6	4	・母性看護の対象理解の理解 1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族
7		
8	2	・親となる過程、家族適応を促すケア
9	2	・思春期の健康問題と看護
10	2	・成熟期の健康問題と看護
11	2	・更年期・老年期の健康問題と看護
12	6	・現代社会における母性の健康をめぐる課題 1. 子ども虐待 2. DV 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 性感染症 5. 喫煙女性の健康と看護
13		
14	2	・母子保健の国際化の現状と課題
15	2	・終講試験

【教科書・参考書、参考資料等】

『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学概論』 医学書院

『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器』 医学書院

【評価の方法】終講試験（筆記）

レポートなどの提出物がある場合は、それを評価の対象に含めて合算し、100点満点とする。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位 (時間数)	担当講師名	時 期
母性看護学方法論 I	1 単位 (30 時間)	小笠原 雅子	2 年次 前 期

【授業の概要および目標】

- 妊娠・分娩・産褥および新生児各期の特徴を踏まえた看護について理解する。
- 妊娠・分娩・産褥および新生児の各期における正常からの逸脱を判断する基礎的知識を習得し、対象に必要な看護を理解する。

授業計画		授 業 内 容
回	時間	
1	2	・妊娠期の看護 1. 妊娠期の身体的、心理的、社会的特性 2. 妊娠と胎児のアセスメント 3. 妊婦と家族の看護
2	2	
3	2	
4	2	・分娩期の看護 1. 分娩の要素と正常経過 2. 産婦のアセスメント 3. 分娩期の看護の実際
5	2	
6	2	・産褥期の看護 1. 産褥の経過 2. 褒婦のアセスメント 3. 褒婦と家族の看護
7	2	
8	2	・新生児の看護 1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児の看護
9	2	
10	2	・正常から逸脱した対象の看護（妊娠期）
11	2	
12	2	・正常から逸脱した対象の看護（分娩期）
13	2	・正常から逸脱した対象の看護（産褥期）
14	2	・正常から逸脱した対象の看護（新生児）
15	2	終講試験

【教科書・参考書】

『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』 医学書院

『根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版』 医学書院

【評価の方法】

- 原則、終講試験での評価とする。
- 出席状況、レポートなどの提出物がある場合は、それを評価の対象に含めて合算し、100点満点とする。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
母性看護学方法論Ⅱ ＜事例展開＞	1 単位 (30 時間)	小笠原 雅子 深津 起代子	2 年次 後期

【授業の概要および目標】

1. 母性看護における看護過程の展開のプロセスを理解する。
2. 妊産褥婦および新生児の健康状態を評価するためのアセスメントの基本を理解する。
3. 母性看護学の対象と看護援助の特徴を踏まえた看護技術を習得する。

回	時間	授業内容	
1	2	・母性看護の看護過程の特徴 ・ウエルネス志向とマタニティ診断について ・事例紹介	
2	2	・妊娠期、分娩期のデータベース、経過診断について	
3	4	・産褥期のデータベース、経過診断・健康生活診断について	小笠原
4		・産褥経過記録について	
5	4	・新生児期のデータベース、経過診断・健康生活診断について	
6		・新生児経過記録について	
7	2	・関連図の作成、問題リスト	
8	2	・看護目標、看護計画の立案	
9	4	<GW>・事例から褥婦に対する保健指導案を作成	
10			
11	6	【技術演習】（含ビデオ学習） ① 褥婦のフィジカルアセスメント、産褥期の子宮底測定 ② 妊婦の腹囲、子宮底測定、レオポルド触診・胎児心拍モニターの装着 ③ 新生児の抱き方・ボトル哺乳・排氣・おむつ交換・新生児の移送 ④ 新生児のフィジカルアセスメント	深津
12			
13			
14		【演習】保健指導：ロールプレイ発表 まとめ	
15			

【教科書】

『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』 医学書院

『根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版』 医学書院

『マタニティ診断ガイドブック』 医学書院

【評価】事例展開（50点）、演習（50点）グループワークの取り組み、技術演習・提出物

その他、出席状況、平常点から総合的に評価する。

【学生へのコメント】

母性看護学実習を行う上で、必須の基礎知識と基礎技術を習得するための取得必須科目である。

演習が主体であるため事前学習を行い、授業に臨んでください。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
精神看護学方法論 I	1 単位 (30 時間)	中田 巧一 吉野 かほる	2 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

- ・こころの問題をもつ対象とその家族の特徴を理解する。
- ・自己理解・他者理解するための自己洞察の必要性、および方法を理解する。
- ・事例展開をとおして、精神に障害のある対象とその家族を理解する視点と必要な援助に対する理解を深める。

授業計画	授 業 内 容		
回	時間		
1	2	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	中田 吉野
2	2	精神科以外での精神看護 1. 身体疾患と精神看護 2. リエゾン精神看護 3. コミュニティにおける精神保健・精神看護	
3	2	ケアの人間関係（患者－看護師関係の相互作用） 1. 患者理解の方法 2. 患者一看護師関係の成り立ち 3. 患者一看護師関係の発展過程 4. 精神看護に用いる理論 ・対人関係論による看護の展開：ペプロウ	
4	2	・対人関係論による看護の展開：トラベルピー、外口玉子	
5	2	・ケアリング、ナラティブ	
6	4	患者理解とコミュニケーション技法 1 こころの問題がコミュニケーションに与える影響 (精神障がいのある患者の特徴、薬剤の副作用による特徴) 2. コミュニケーションの技法	
7			
8	2	関係のなかの人間 1. 集団と自己 2. グループダイナミクス効果	
9	2	プロセスレコードの意義と方法 1. プロセスレコードとは 2. 目的 3. 書き方 4. 演習	
10	2	事例展開 1. 事例紹介 2. フェイスシート・データベース	
11	2	3. 分析・統合	
12	2	4. 分析・統合	
13	2	5. 関連図・問題リスト	
14	2	6. 看護計画	
15	2	試験（筆記）	

【教科書】

- ・系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院
- ・系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

【評価の方法】 筆記試験と事例展開（個人ワーク、記録の提出）

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
精神看護学方法論Ⅱ	1単位(30時間)	吉野 かほる	2年次 後期

【授業の概要および目標】

1. 精神看護の対象の理解と基本的支援を学ぶ。
2. おもな精神疾患・障害の特徴と症状別・経過別看護を学ぶ。
3. リエゾン精神看護、災害時の精神看護について理解を深める。
4. 司法精神医療および、精神看護におけるリスクマネジメントを理解する。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	精神疾患と障がいを持つ人の理解と支援 1. 援助関係の構築 2. セルフケアの援助 3. 生きる力と強さに着目した援助
2	2	精神障がいを持つ人への看護援助の基本 1. 日常生活援助
3	2	入院から退院までの経過とケア 1. 急性期 2. 回復期 3. 寛解期 4. 慢性期
4	2	精神看護のセフティマネジメント 1. リスクマネジメントとセフティマネジメント 2. 精神医療における医療事故 3. 安全対策
5	2	司法精神看護
6	2	リエゾン精神看護 と 災害時の精神看護
7	2	1. 統合失調症患者の看護 2. 気分障害・うつ状態の患者の看護
8	2	3. 認知症患者の看護
9	6	症状アセスメントとケアプラン 1. 幻覚、妄想の患者の看護 2. せん妄・昏迷の患者の看護 3. 自殺・自傷行為がある患者の看護 4. 依存症患者の看護
10		
11		
12		日常生活行動と精神の健康問題の対応 1. 不眠状態の患者の看護 2. 拒絶的な患者の看護 3. 興奮状態の患者の看護 4. 不安状態の患者の看護 5. 攻撃的行為をとる患者の看護 6. 摂食行動の障害の患者の看護 など
13	6	
14		
15	2	試験

【教科書】

系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

【評価の方法】

筆記試験

統合分野

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
在宅看護論概論	1 単位(30 時間)	鎌田 みどり	2 年次 前期

【授業の概要および目標】

1. 在宅看護が必要とされる社会背景が理解できる。
2. 在宅看護の対象を生活者と捉え、その特徴について理解できる。
3. 家族アセスメント・支援の方法が理解できる。
4. 在宅ケアシステムにおける看護職の役割について学ぶ。
5. 在宅療養を支える制度と社会資源が理解できる。

回	時間	授業内容
1	2	在宅看護とは
2	2	在宅看護の変遷・目的・特徴
3	2	在宅看護の対象者
4	4	介護・福祉機器の見学
5		バリアフリー2022（インテックス大阪）
6	2	在宅看護と家族
7	2	在宅看護にかかわる法令・制度①
8	2	在宅看護にかかわる法令・制度②
9	2	在宅看護にかかわる法令・制度③
10	2	ケアマネジメント
11	2	地域包括ケアシステム①
12	2	地域包括ケアシステム②
13	2	地域包括ケアシステム③
14	2	認知症サポート養成講座
15	2	終講試験・振り返り

【教科書】

医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論

【評価方法】

出席状況、課題レポート、筆記試験で総合的に評価

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
在宅看護論方法論Ⅰ (在宅看護技術)	1 単位 (30)	松井由美子	2年次 後期

【授業の概要および目標】

在宅看護の特徴を踏まえ、療養状態に合わせた看護・継続看護を理解する。また、療養者とその家族を取り巻く環境に合わせた在宅看護実践の技術についての知識と技術を修得する。

授業計画		教育内容
回	時間	
1	2	訪問看護技術
2	2	在宅療養生活を支える基本的な技術① コミュニケーション・フィジカルアセスメント・環境整備
3	2	在宅療養生活を支える基本的な技術② 生活リハビリテーション・感染予防・ターミナルケア
4	2	日常生活を支える看護技術① 食生活・呼吸・排泄・睡眠
5	2	日常生活を支える看護技術② 清潔と更衣・肢位の保持と移動
6	2	【演習】残存機能を活用する在宅看護技術演習 移動方法
7	2	療養を支える看護技術① 医療ケアの原理原則・薬物療法（輸液管理、がん外来化学療法含む）
8	2	療養を支える看護技術② 肺痰ケア・気管カニューレ管理・在宅人工呼吸療法
9	2	療養を支える看護技術③ 経管栄養法
10	2	療養を支える看護技術④ 排泄ケア（ストーマ管理）
11	2	療養を支える看護技術⑤ 褥瘡管理・足病変のケア・疼痛管理
12	2	在宅療養を支える災害対策
13	4	【演習】足病変のケア
14		床上での足浴
15	2	試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

『系統看護学講座 統合分野 地域・在宅看護の実践』医学書院

【評価の方法】

授業態度、演習への取り組み、課題提出、筆記試験で総合的に評価

【学生へのコメント】

疾病や障がいがあっても、在宅でその人らしく生きるためには、どのような視点や援助が必要となるでしょうか。療養者とその家族および療養の場の多様性・複雑性に対応したその人らしい生活を支援するための知識や技術を学びましょう。

統合分野

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
在宅看護論方法論Ⅱ	1単位(30時間)	鎌田 みどり	2年次後期

【授業の概要および目標】

1. 在宅看護過程の展開方法が理解でき、看護過程の展開ができる。
2. 在宅における生活支援の方法が理解できる。
3. 在宅における医療管理を必要とする人とその看護について理解できる。
4. 在宅療養者や家族と信頼関係を形成するための方法が理解できる。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	療養の場の移行
2	2	療養上のリスクマネジメント
3	2	在宅看護における権利保障
4	2	在宅看護過程
5	2	事例紹介 情報整理
6		
7	6	分析・統合
8		
9	2	関連図・問題リスト
10	2	看護計画立案
11	2	演習計画立案
12	2	演習計画立案
13		
14	4	訪問看護演習(訪問時のマナー)
15	2	終講試験・振り返り

【教科書】

『系統看護学講座 統合分野 地域・在宅看護の実践』医学書院

【評価の方法】

出席状況、課題レポート、演習状況、筆記試験で総合的に評価

【学生へのコメント】

在宅療養者及び家族への支援する方法をイメージ化できるように、事例を通して学んでいきます。基本的な援助が在宅の場でも実施できるように取り組んでいきましょう。

統合分野

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅱ (救急・災害・国際)	1 単位 (30 時間)	中村 直晶	2年次 後 期

【授業の概要および目標】

- ・看護の目的を知り、目的達成のための手段がわかる
- ・生命サイクルがわかり、ABCD アプローチができる
- ・救命処置法の必要性と手技がわかる
- ・循環の基礎がわかり、循環不全の症状が理解できる
- ・循環不全の種類と病態生理がわかる
- ・緊急処置を必要とする疾患がわかる
- ・呼吸の観察ポイントがわかる
- ・呼吸音の種類、病態生理が理解できる
- ・意識と意識障害について理解できる
- ・意識の観察の方法を知ることが出来る
- ・災害の種類を知り、災害看護の基本がわかる
- ・災害看護の活動場所や、場所に応じた看護活動を知ることができる
- ・災害活動の実際を知り、災害看護活動がイメージできる
- ・被災者、医療者に起こりうる精神状態を知ることができる

授業計画		授 業 内 容
回	時間	
1	2	看護の目的を知り、目的達成のための手段がわかる ・看護の目的、対象について ・看護の目的を達成させる方法。手段について
2	2	生命サイクルがわかり、ABCD アプローチができる ・生命サイクルについて ・ABCD アプローチについて ・急変について ・急変させない方法について
3	2	救命処置法の必要性と手技がわかる ・一次救命法について ・呼吸の確認について ・胸骨圧迫心臓マッサージについて ・AED について
4	2	循環の基礎がわかり、循環不全の症状が理解できる ・循環の 3 要素について ・循環不全(ショック)について
5	2	循環不全の種類と病態生理がわかる ・ショックの種類について ・それぞれの特徴と関連する疾患について
6	2	緊急処置を必要とする疾患がわかる ・5 killer chest Paine について ・心不全について
7	2	呼吸の観察ポイントがわかる ・呼吸器の解剖生理について ・呼吸の観察方法、異常呼吸について

8	2	呼吸音の種類、病態生理が理解できる ・呼吸音の特徴について ・吸引について
9	2	意識と意識障害について理解できる ・意識について ・意識の正常と異常について ・意識障害の原因について
10	2	意識の観察の方法を知ることができる ・グラスゴー コーマ スケールについて ・ジャパンコーマスケールについて ・スケールの使い方について
11	2	災害の種類を知り、災害看護の基本がわかる ・災害の種類について ・災害看護について
11	2	災害看護の活動場所や、場所に応じた看護活動を知ることができる ・災害サイクルについて ・CSCATTについて ・災害トリアージについて
12	2	災害活動の実際を知り、災害看護活動がイメージできる ・東日本大震災での医療活動について ・熊本地震での災害医療活動について ・西日本豪雨災害での災害支援ナースとしての活動について
13	2	被災者、医療者に起こりうる精神状態を知ることができる ・被災者の精神的、身体的影響について ・支援者の精神的影響について
14	2	国際看護について ・国際看護のとは ・人間の安全保障 ・持続可能な開発目標 ・国際協力の仕組み
15	2	試験
【教科書】		
『系統看護学講座 別巻 救急看護学』 医学書院		
『系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学』 医学書院		
【評価の方法】		
筆記試験、出席状況		

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）	1 単位（30 時間）	野村 佳香	2 年次 後 期

【授業の概要および目標】

看護実践に科学的視点を持てるように看護研究の必要性、目的、研究方法を学ぶ。研究方法については、研究テーマの決定、文献の集め方、読み方、研究論文の書き方、研究発表の方法を理解し、研究を展開できる基礎的能力を養うこととする。

授業計画		授 業 内 容
回	時間	
1	2	看護研究とは（看護研究の意義）
2	2	看護研究のプロセス（研究テーマの決め方）
3	2	看護研究のプロセス（倫理的配慮 研究の進め方）
4	2	看護研究のプロセス（文献の集め方読み方）
5	2	看護とケーススタディ
6	2	ケーススタディにおけるケースレポート（企画と準備）
7	2	ケーススタディにおけるケースレポート（ケースレポートの作成）
8	2	ケーススタディにおけるケースレポート（ケースレポートの発表）
9	4	ケースレポート実例と解説（グループワーク）
10		
11	4	ケースレポートの発表
12		
13	4	関西看護学生看護研究大会
14		
15	2	まとめ（試験）
【教科書・参考書、参考資料等】		
テキストなし		
【評価の方法】		
試験、レポート、グループワークへの参加度で評価する。		

統合分野

授業科目名	単位(時間数)	担当講師名	時期
看護の統合と実践Ⅳ	1 単位 (30 時間)	宇藤 裕子 神藤 めぐみ	3 年生 前期・後期

【授業の概要および目標】

- 『最良の看護を目的』として、そのためのシステムとその運用方法を、授業を通じて理解する。
- マネジメントに必要な知識と技術を理解する。
- 研究活動のプロセスを理解し、看護実践を振り返ることで看護に対する考え方を深める機会とする。
- 事例を通して、複数患者受け持ち時の時間配分、優先順位について学ぶ。

授業計画		授業内容	担当
回	時間		
1	2	第1章 看護とマネジメント 看護管理とは～ マネジメントとは～	
2	2	第2章 ケアのマネジメント 看護基準と看護手順 患者の権利の尊重～インフォームドコンセント～ 看護管理～インシデントレポート 看護職の協働～ 看護ケア提供システム～	
3	4	第2章 ケアのマネジメント 他職種との協働～ 情報～ 第3章 看護サービスのマネジメント 看護管理の定義～ 看護の組織化～ 看護単位の機能～ 新人教育～ サービスの評価～	宇藤
4		第4章 看護をとりまく諸制度 看護職と法制度～ 医療制度～	
5	2	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 組織原理～ リーダーシップの定義～ コミュニケーション～ ストレスマネジメント～ その他	
6	2	看護研究オリエンテーション	
7	2	看護研究論文執筆①	
8	2	看護研究論文執筆②	
9	2	看護研究発表原稿と資料作成①	
10	2	看護研究発表原稿と資料作成②	
11	2	看護研究発表原稿と資料作成③	神藤
12	2	看護研究発表原稿と資料作成④	
13	2	看護研究発表と聴講①	
14	2	看護研究発表と聴講②	
15	2	終講試験	
【教科書・参考書・参考資料等】			
系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院			
領域別実習で学習したこと全て			

【評価の方法】

出席単位および筆記試験

授業態度と授業に臨む姿勢

看護研究に取り組む姿勢・発表内容

【学生へのコメント】

・看護の管理って何だろう。興味をもってください。

・看護研究担当：主体的に担当教員にアポイントメントを取り、指導を受けながら進めてください。

提出期限以降の提出は評価の対象になりません。3年間の集大成として、看護実践を考察しながら自分の考えをまとめ、相手に伝える力を身につけましょう。



学籍番号

名前